



# 株式会社タムラ製作所

2005年3月期 決算説明会

2005年5月18日



# 目次



- 1. 2005年3月期決算概要**
- 2. 2006年3月期通期業績予想**
- 3. 今後の事業戦略**

# 1. 2005年3月期決算概要

# ハイライト(要約損益計算書)



	04/3	05/3	対前年同期比較	
			増減	率
売上高	74,539	75,971	1,432	1.9%
営業利益	3,338	2,839	-498	-14.9%
営業外損益	-1,181	-230	949	—
経常利益	2,157	2,608	451	20.9%
特別損益	-416	-636	-220	—
税引前利益	1,741	1,972	231	13.3%
当期純利益	822	601	-221	-26.9%

05/03 期中平均実績為替レート : 107円55銭

05/03 期中平均社内為替レート : 104円60銭

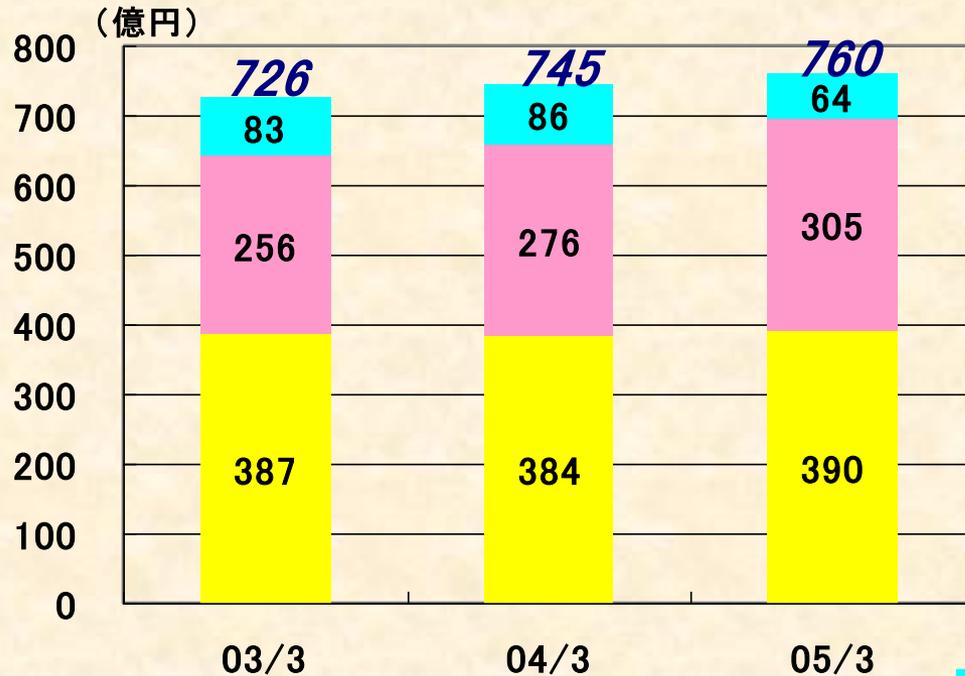
- 売上高は、商品価格の低下や夏場以降の生産調整などもあり微増
- 原油価格や銅・鉄類などの素材価格の高騰の影響もあり営業利益は減益
- 構造改革や効率化推進及び為替の円安傾向などもあり、経常利益、税引前利益は大幅に増益
- 外国法人税の支出が多く、当期純利益については減益

# 事業部門別の売上高・利益推移

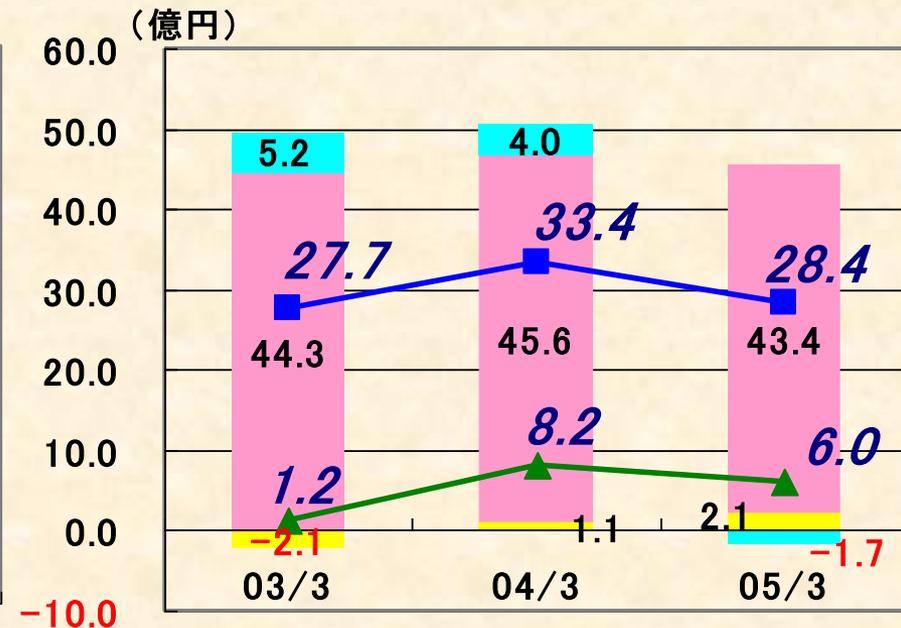


電子化学材料・はんだ付装置事業が堅調に売上拡大・利益も牽引するが  
 素材価格の高騰や商品価格の下落・競争激化もあり、営業利益は減少

【売上高】



【営業利益(当期純利益)】



- 情報機器関連
- 電子化学材料・はんだ付装置関連
- 電子部品関連
- 営業利益
- ▲ 当期純利益

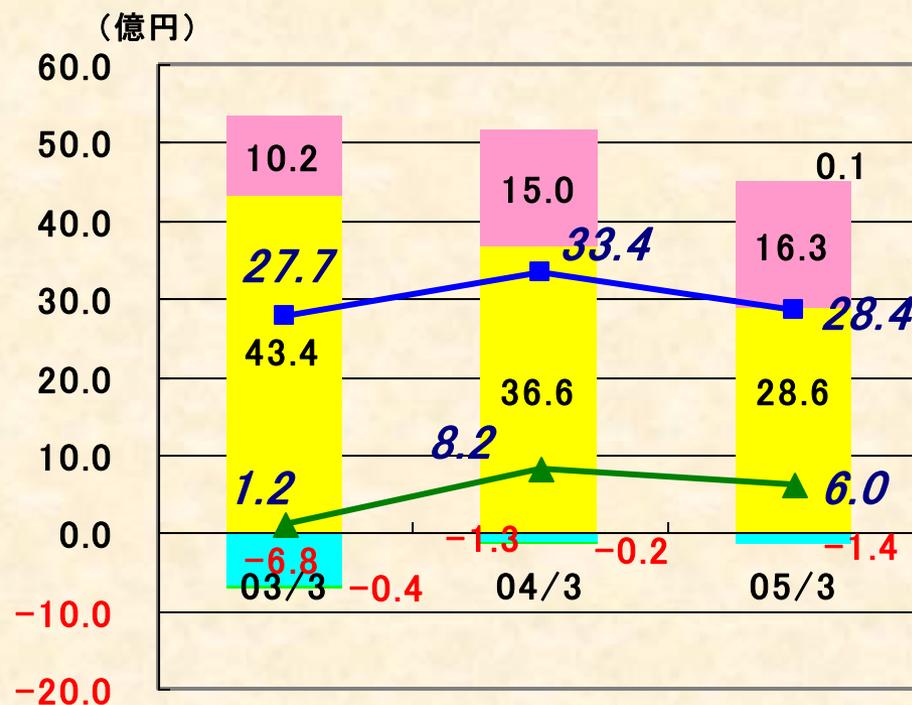
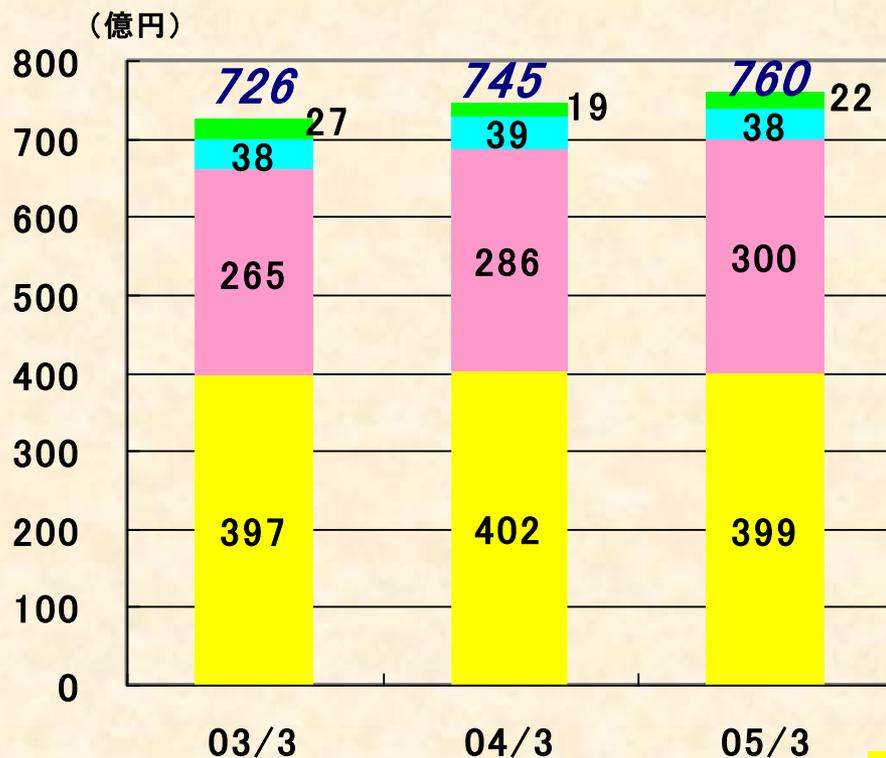
# 地域別の売上高・利益推移



引き続き、中国を中心にアジアが堅調に増収・増益、  
南北アメリカも微増ながらも回復基調

【売上高】

【営業利益(当期純利益)】

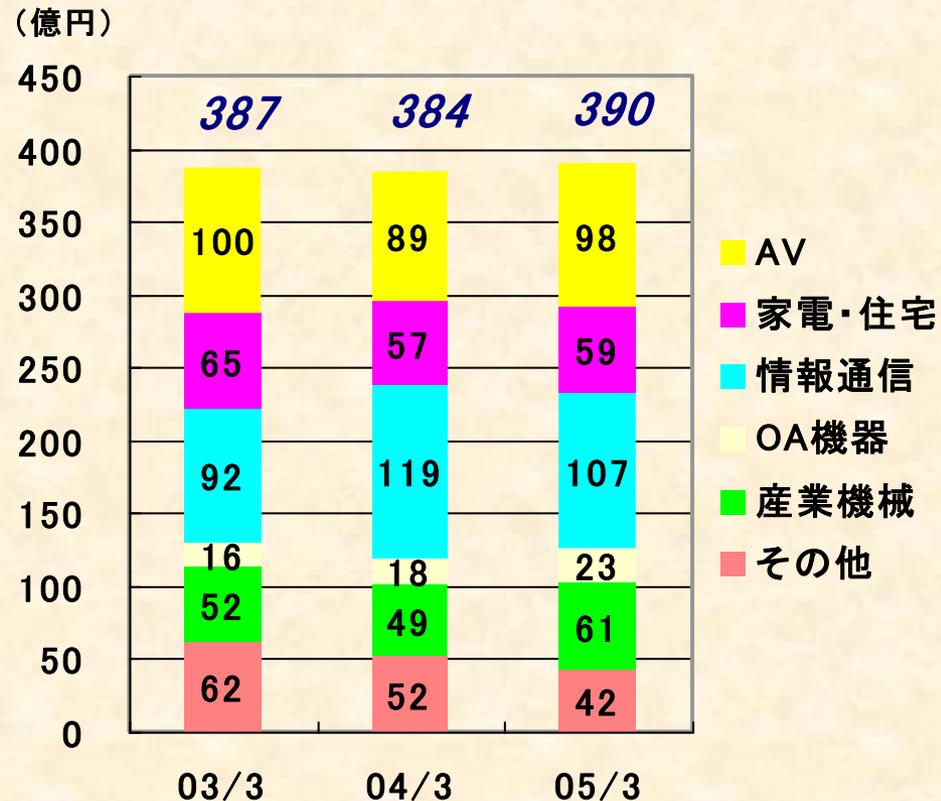


■ 日本      ■ アジア      ■ ヨーロッパ  
■ 南北アメリカ      ■ 営業利益      ▲ 当期純利益

# 電子部品事業の売上高推移



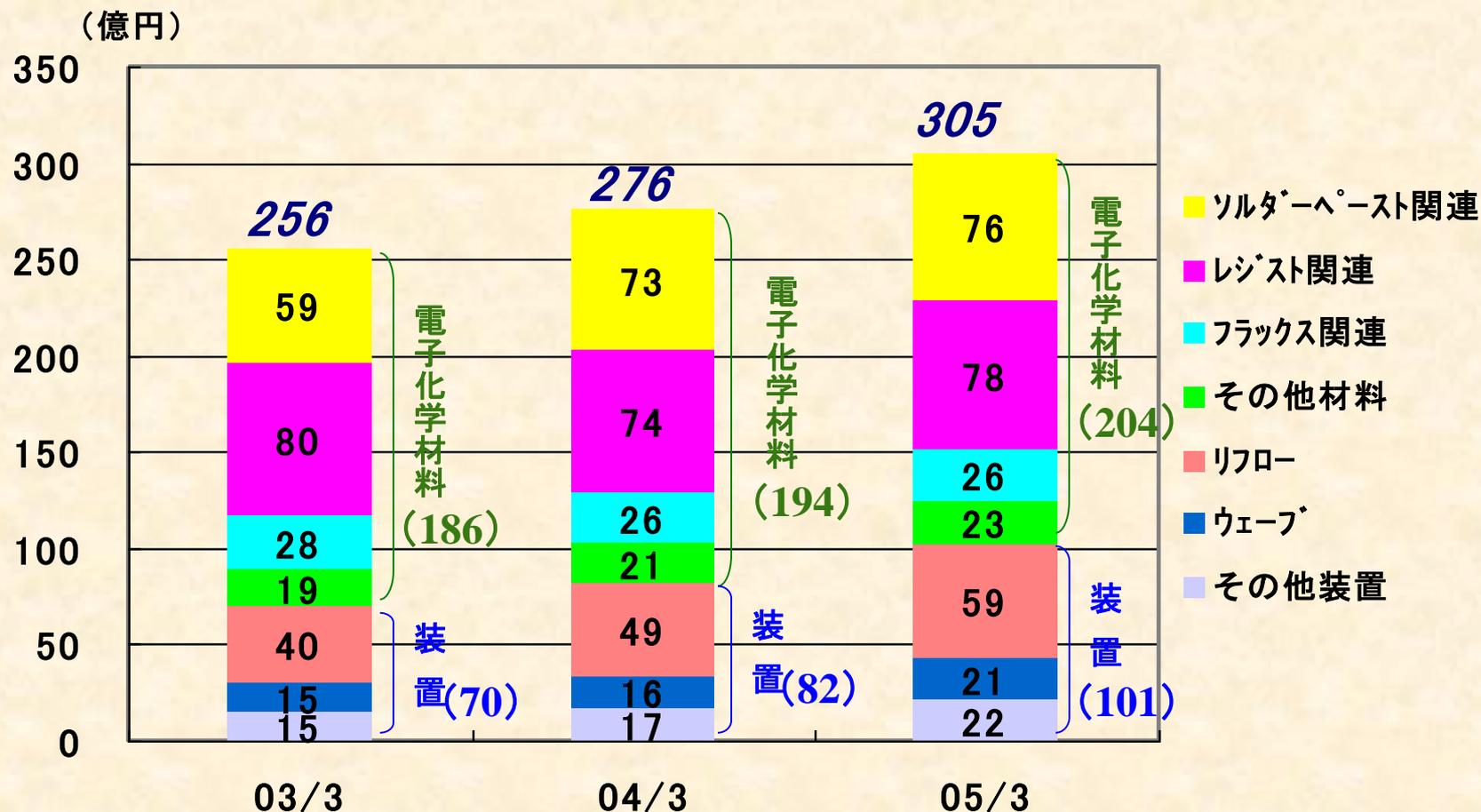
デジタルAV、産業機器向け部品は堅調だが  
ノートPCをはじめとする情報関連機器の市場環境の減速や  
商品価格の下落などの影響で売上微増



# 電子化学材料・はんだ付装置事業 の売上高推移



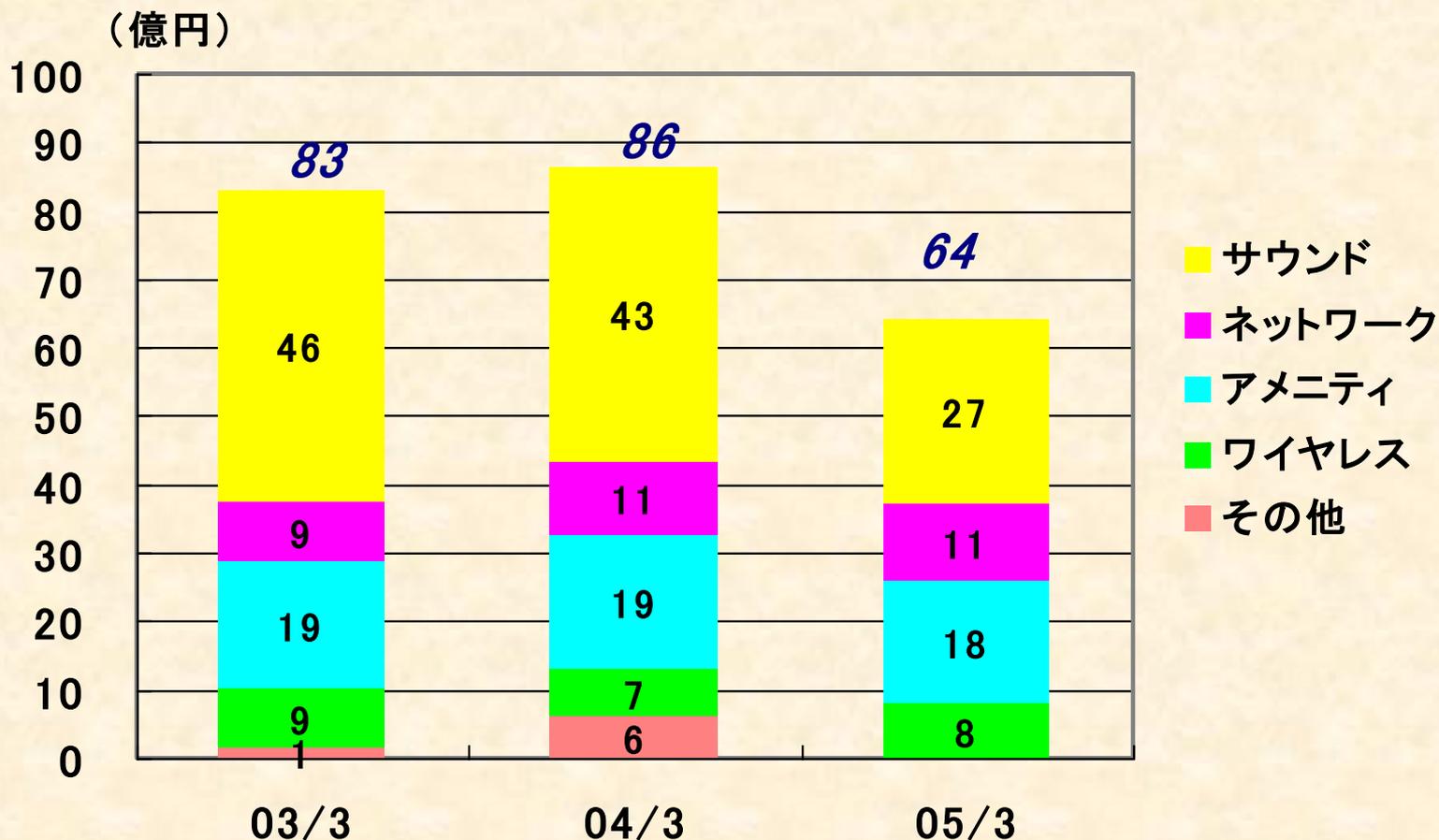
鉛フリーなど環境対応の需要増大に伴い、  
はんだ付装置を中心に引き続き好調に推移



# 情報機器事業の売上高推移



放送関連設備のデジタル化の動きが地方局へシフトしつつあるものの需要の端境期を迎え、大幅な減収



# 要約貸借対照表



## 総資産は微増

単位: 百万円

	04/3	05/3	対前年同期 増減
流動資産	49,174	50,119	944
(現預金)	11,860	9,466	-2,393
(売上債権)	24,659	26,913	2,253
(棚卸資産)	9,925	11,858	1,932
固定資産	26,838	26,295	-543
(有形固定資産)	16,762	15,963	-799
(無形固定資産)	1,800	998	-802
(投資、その他)	8,275	9,333	1,058
資産合計	76,013	76,414	401

流動負債	21,255	27,563	6,307
(仕入債務)	10,736	12,051	1,315
固定負債	15,725	9,816	-5,909
負債中 有利子負債	19,016	18,417	-598
負債計	36,981	37,379	398
資本計	38,895	38,912	16
負債・少数株主持分・資本計	76,013	76,414	401

■ 中国エリアでの生産・販売が急速に拡大

- ・売上債権増
- ・棚卸資産増
- ・非連結子会社への増資

■ 有利子負債 長短振替

- ・借入金50億円
- 固定負債 → 流動負債



■ 株主資本比率 50%を保持

# 要約キャッシュフロー



フリーキャッシュ・フローは減少  
将来に結びつく支出で財務体質は健全を維持

単位:百万円

	04/3	05/3	増減	コメント	施策
営業活動による キャッシュフロー	3,169	429	-2,740	主に中国地区での販売・生産の急拡大	営業拡大投資
投資活動による キャッシュフロー	-1,454	-1,740	-286	非連結子会社の資本を増強	子会社育成
フリーキャッシュフロー	1,715	-1,311	-3,027		将来キャッシュ増
財務活動による キャッシュフロー	-1,081	-1,193	-111	有利子負債の一部返済	財務体質強化策
キャッシュの増減	512	-2,476	-2,989		一時的にキャッシュ 減少
キャッシュの残高	11,783	9,306	-2,476	キャッシュ手持ちは1.5ヶ月分	



# トピックスI

## 電子部品事業

- ・戦略事業であるセラミック事業における新用途拡大を積極推進  
実績) ・OA機器向けに高圧用圧電トランスの採用決定  
→ 生産体制の増強(月産100万個体制を確立)
- ・高圧モジュール・高圧電源についても新規採用に向け提案中

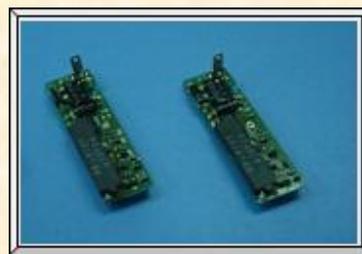
小型・薄型、高効率、安全性、  
利便性等でユーザーニーズに一致



圧電トランス



高圧モジュール



高圧電源

# トピックスII

## 電子化学材料・はんだ付装置事業①

・リフローはんだ実装向け装置のラインナップ拡大、充実

①はんだ付け前工程装置：ペースト印刷検査機の販売を開始

②小型・省スペース向けはんだ付装置新製品を市場投入

ラインナップ拡充



3次元ペースト印刷検査機

小型・省スペース化対応



鉛フリー対応リフロー装置  
「TNP20-307PH」

# トピックスIII

## 電子化学材料・はんだ付装置事業②

・鉛フリー材料のグローバル化に向け、高性能製品を市場投入開始

【現状の鉛フリーソルダペーストの課題】

ライン作業における鉛フリー化の課題が  
まだ多く残されている。

- 連続印刷時のぬけ性
- リフロー後のフィレット中に発生するボイド
- 高温プリヒートに対する耐熱性
- 部品に対するぬれ性
- チップサイドに発生する微小ボール
- CSP部における微小な接合

など

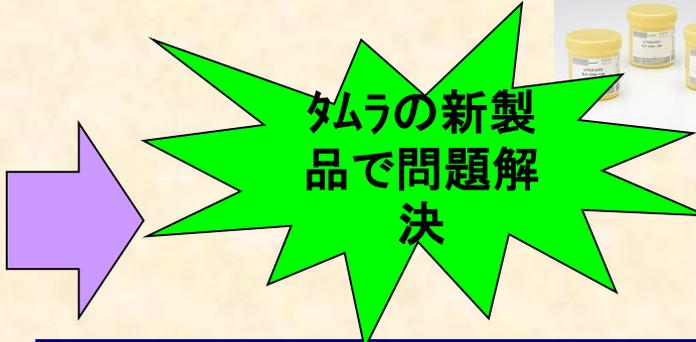
＜金メッキに対するぬれ性比較例＞



(当社新製品)



(他社製品)



たむらの新製品  
で問題解決



各種の問題を豊富なラインナップで対応  
⇒ シェアアップを目指す

1. 汎用性 ⇒ TLF-204-111

2. ボイドの低減、チップ脇ボールの低減  
⇒ TLF-204-111M

3. プリヒートだれ性 ⇒ TLF-204-93SP

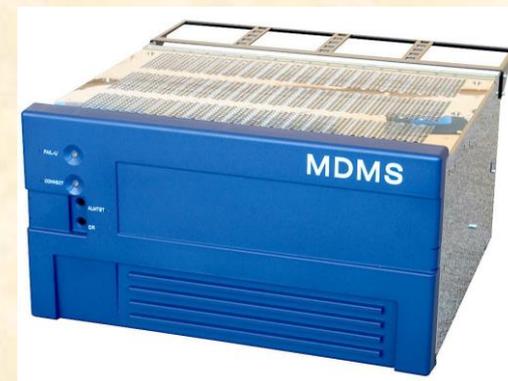
4. 微小ランドの印刷性、溶融性  
⇒ TLF-204F-111S

# トピックスIV



## 情報機器事業

- ・通信事業社殿向けの次世代ネットワーク監視装置を開発し、NTTグループ殿へ納入を開始。



次世代ネットワーク監視装置



携帯電話抑止装置「TEL-PAUSE II」

- ・ワイヤレス技術の応用製品である「携帯電話抑止装置」を劇場・ホール・病院などへ積極展開。また、市場ニーズも高く、海外市場へも拡販活動中。



## 株主の皆様への利益還元

平成17年3月期期末配当金は、当社創業80周年にあたり  
普通配当(3円) + 記念配当(1円) → 4円

1株当たりの年間配当金は、

中間配当金(3円) + 期末配当金(4円) → 7円



## 2. 2006年3月期通期業績予想

# ハイライト(損益見通し)



プロダクトミックスによる利益向上を最重要視

	05/3	06/3	対前年比較	
			増減	率
売上高	75,971	78,000	2,029	2.7%
営業利益	2,839	3,800	961	33.8%
経常利益	2,608	3,200	592	22.7%
当期純利益	601	1,000	399	66.4%

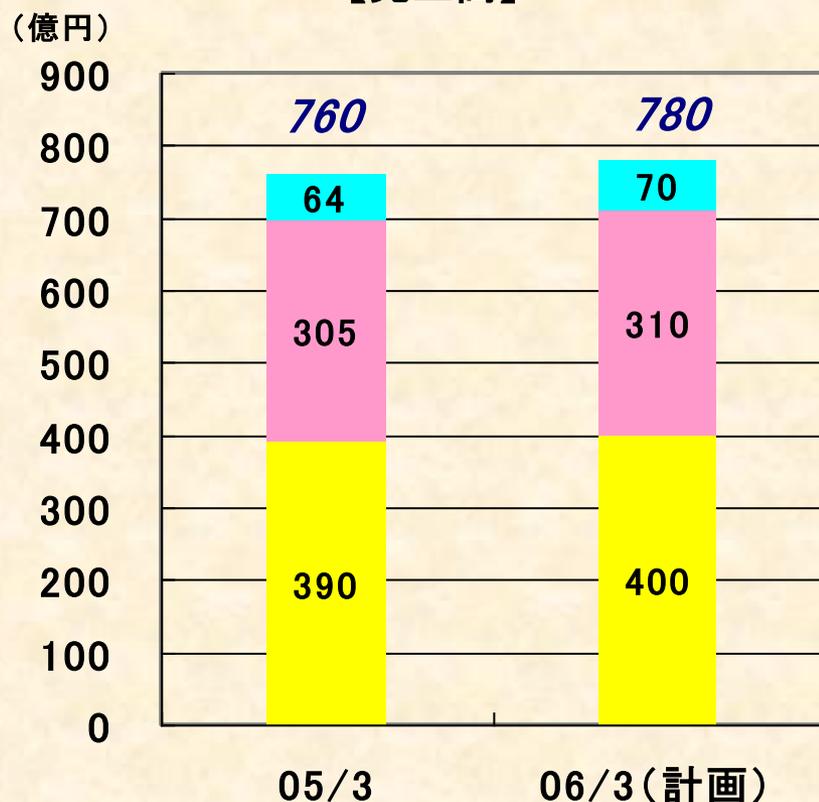
06/3 平均為替レート : 105円

# 事業部門別の売上高・利益の見通し

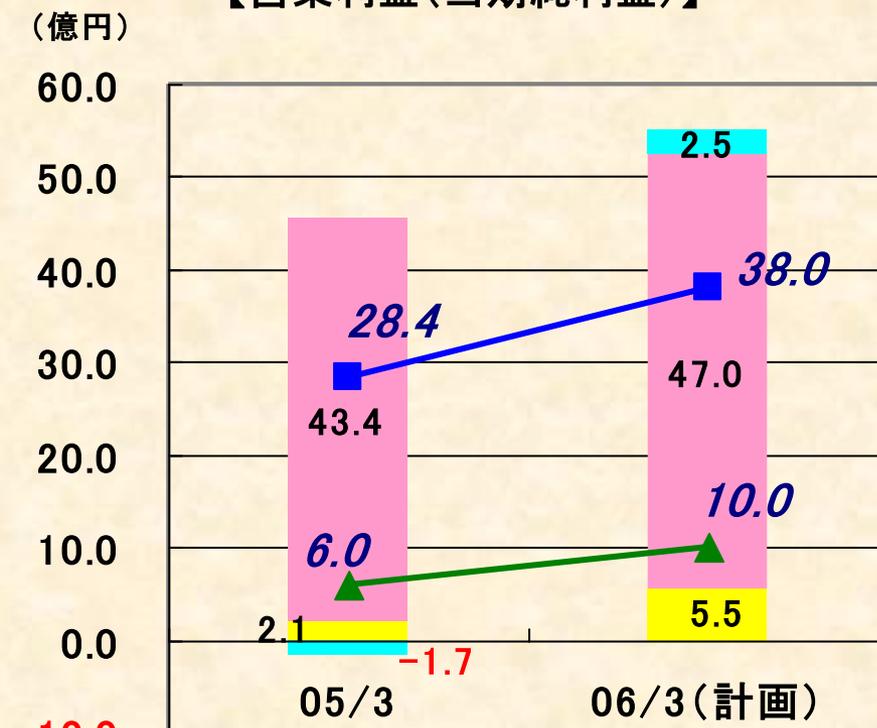


電子化学材料・はんだ付装置事業が利益を牽引、情報機器は黒字転換

【売上高】



【営業利益(当期純利益)】



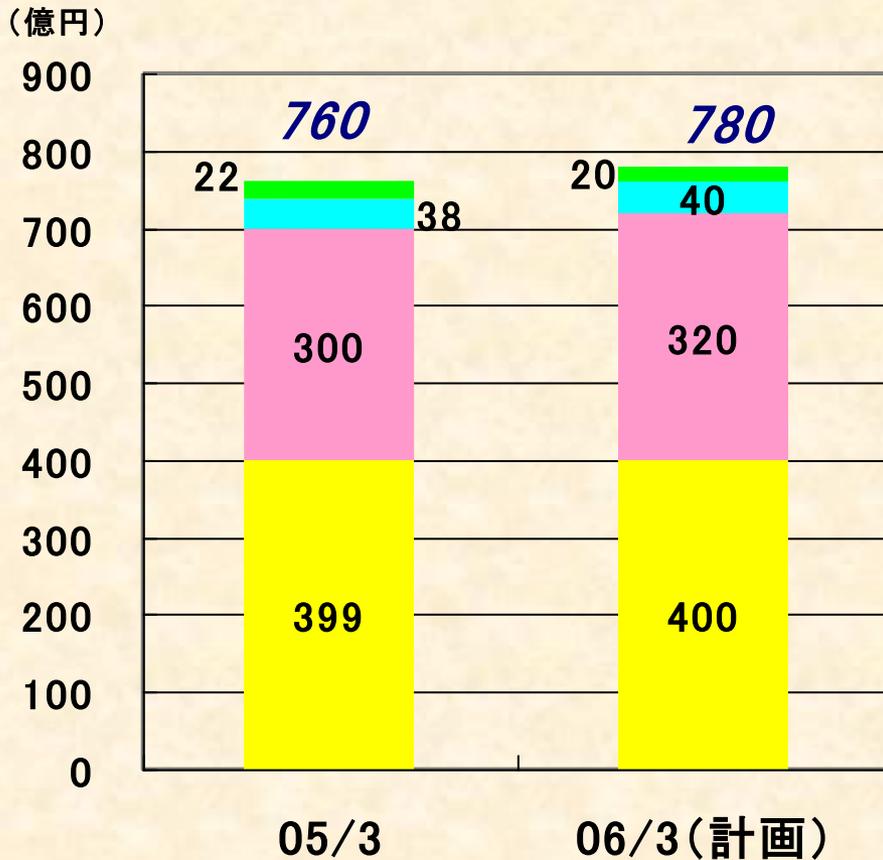
- 情報機器関連
- 電子化学材料・はんだ付装置関連
- 電子部品関連
- 営業利益
- ▲ 当期純利益

# 地域別の売上高・利益の見通し

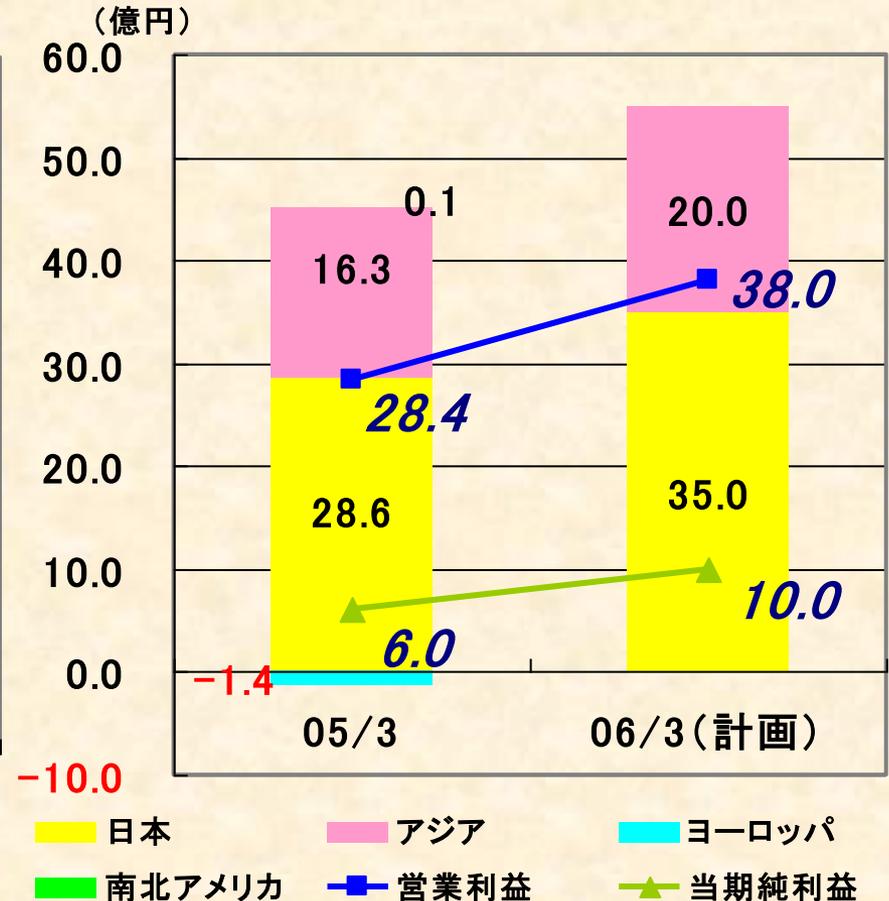


引き続き、中国エリアを中心にアジアが牽引役

【売上高】



【営業利益(当期純利益)】

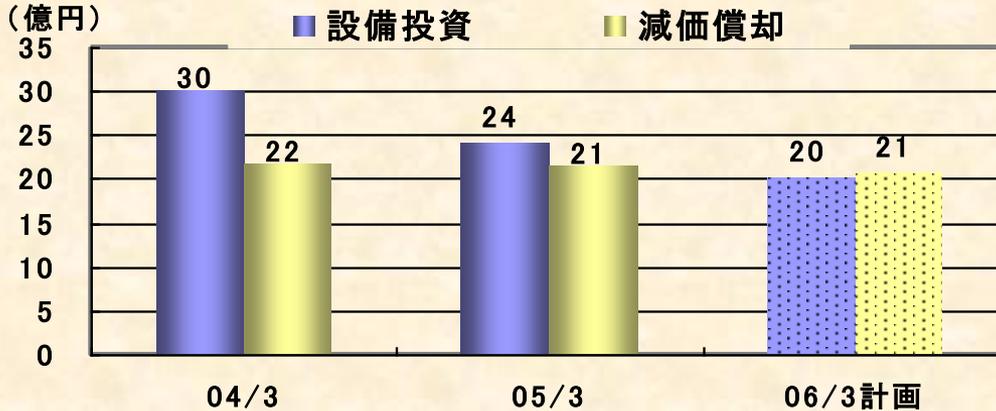


- 日本
- アジア
- ヨーロッパ
- 南北アメリカ
- 営業利益
- 当期純利益

# 設備・研究開発投資の状況

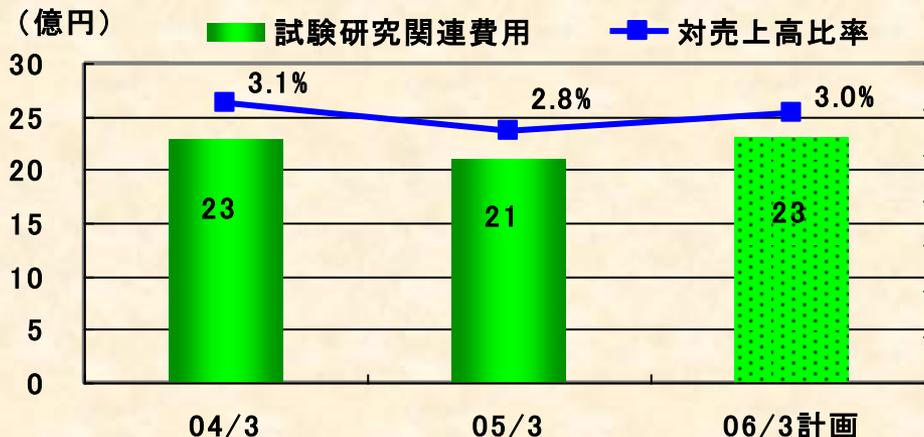


## ■ 設備投資・減価償却費



- ・設備投資は、ERPへの大口投資終了
- ・減価償却は概ね予定通りに推移

## ■ 研究開発関連費用



- ・市場ニーズ対応による開発を推進
  - ・次世代デジタル音声機器
  - ・ワイヤレス関連機器 (RFID、携帯抑止装置)
  - ・磁性材料関連の新素材開発
  - ・セラミック事業の新用途向け材料、製品
  - ・車載向け電子部品
  - ・鉛フリーをはじめとする各種の環境対応材料・装置の開発
- ・半導体市場向け実装装置

### 3. 今後の事業戦略

# 非連続発想による経営推進



*Only One*

**「非連続発想」**で

既存事業競争力の強化  
新規事業の創出

真のグローバル企業へ

従来とは違う手法による構造改革

- ◆ バランス・スコアカード経営手法の浸透による  
バランス経営の実現
- ◆ 執行役員制度導入による責任の明確化
- ◆ MAPS(タムラERPシステム)の有効活用による  
スピード経営と効率化の実現
- ◆ 事業セグメントを横断する改革・プロジェクト  
の実施やプロダクトミックスの促進
- ◆ 新規市場への積極展開 など

実現

加速

目標よりも常に一步上を  
**中期計画“Ambitious 11”**

# 事業戦略(1)



## 電子部品事業 - 経営マネジメント戦略 -

- ERP活用による連結原価マネジメント強化と  
プロダクトミックスによる収益性の改善、向上
- 技術部門の統合による技術リソースの集中、  
重点顧客別営業組織への再編などの戦略的人材シフト

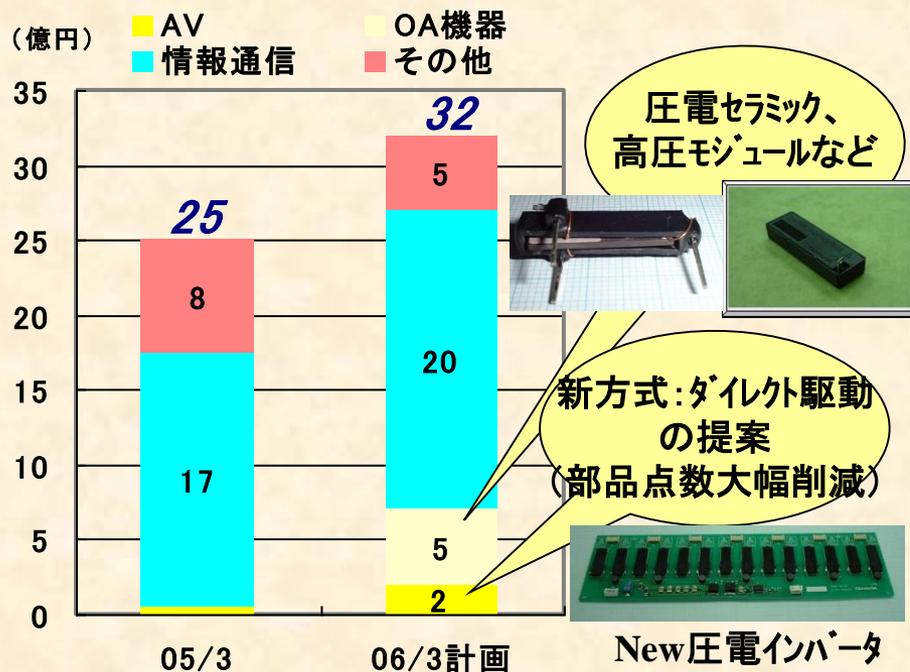


# 事業戦略(2)

## 電子部品事業 - 事業構造戦略 -

- セラミック事業の新たな用途（OA機器、液晶TV・PCモニタ市場）拡大
- 成長市場（産業機械、車載、エネルギー関連）への積極参入と拡販
- 中国への戦略的展開：生産拠点の増強、人材強化

【セラミック事業用途別売上高推移】



【産業機械市場製品別売上高推移】



# 事業戦略(3)



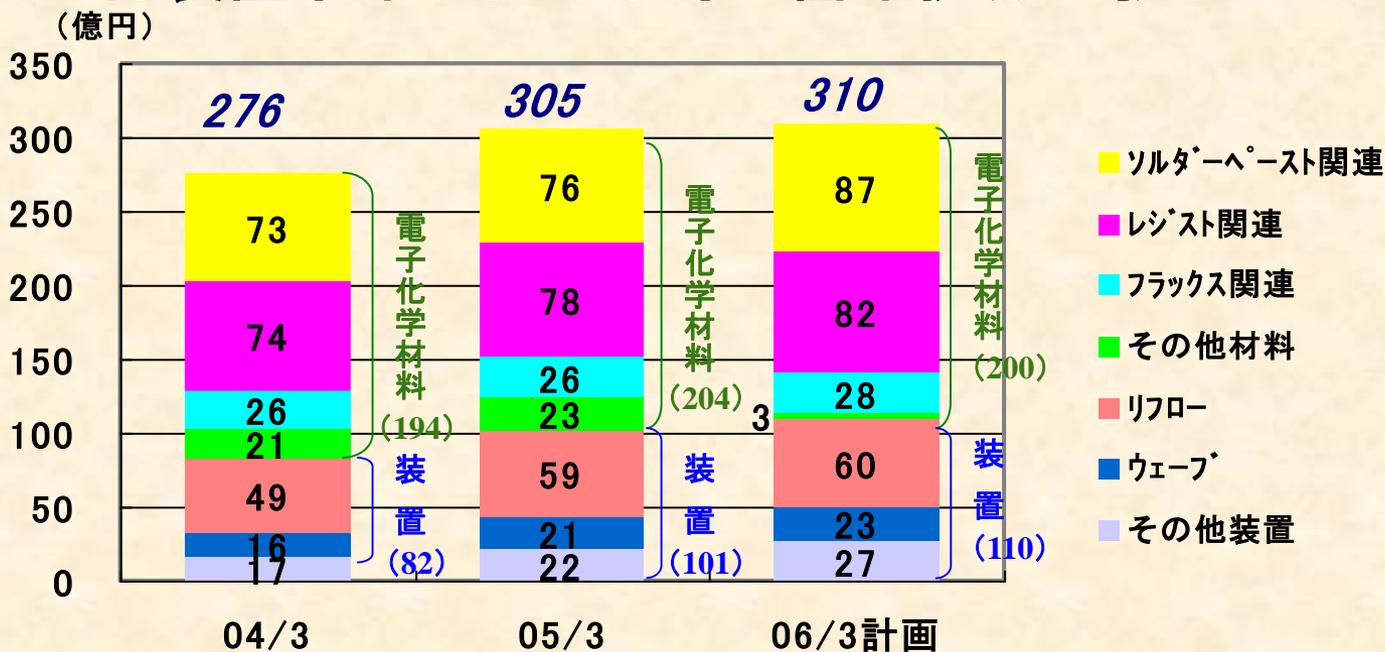
## 電子化学材料・はんだ付装置事業 -経営マネジメント戦略-

➤ 「鉛フリー市場」での必勝に向け、新製品投入・営業力強化による市場でのシェア確保



新製品：TLF-204-111シリーズ市場投入開始

- 材料～実装技術のトータル・ソリューションを生かした技術革新の促進
- はんだ付装置事業における海外営業拠点の強化

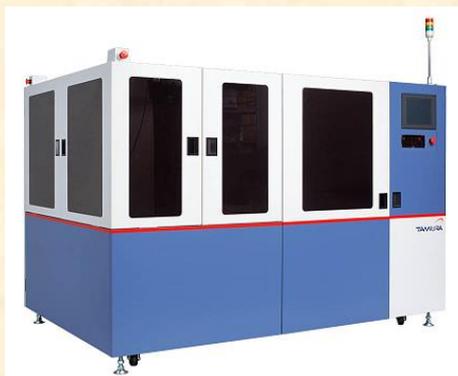


# 事業戦略(4)

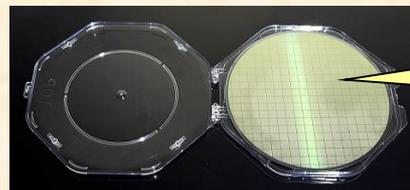


## 電子化学材料・はんだ付装置事業 - 事業構造戦略 -

- 新市場: 半導体市場における装置ビジネスの必勝  
→ 開発・営業の連携の次世代半導体プロジェクト結成による拡販体制確立



次世代高性能半導体向け  
鉛フリーはんだバンプ形成装置



ウエハ拡大図

超ファインピッチを実現  
(50 $\mu$ m~120 $\mu$ m)

はんだバンプ形成装置の販売をはじめ  
半導体製造関連装置の開発・販売を強化

更なるファインピッチ  
対応も開発推進中

- 新規材料(導電性接着剤、層間絶縁材)の拡販



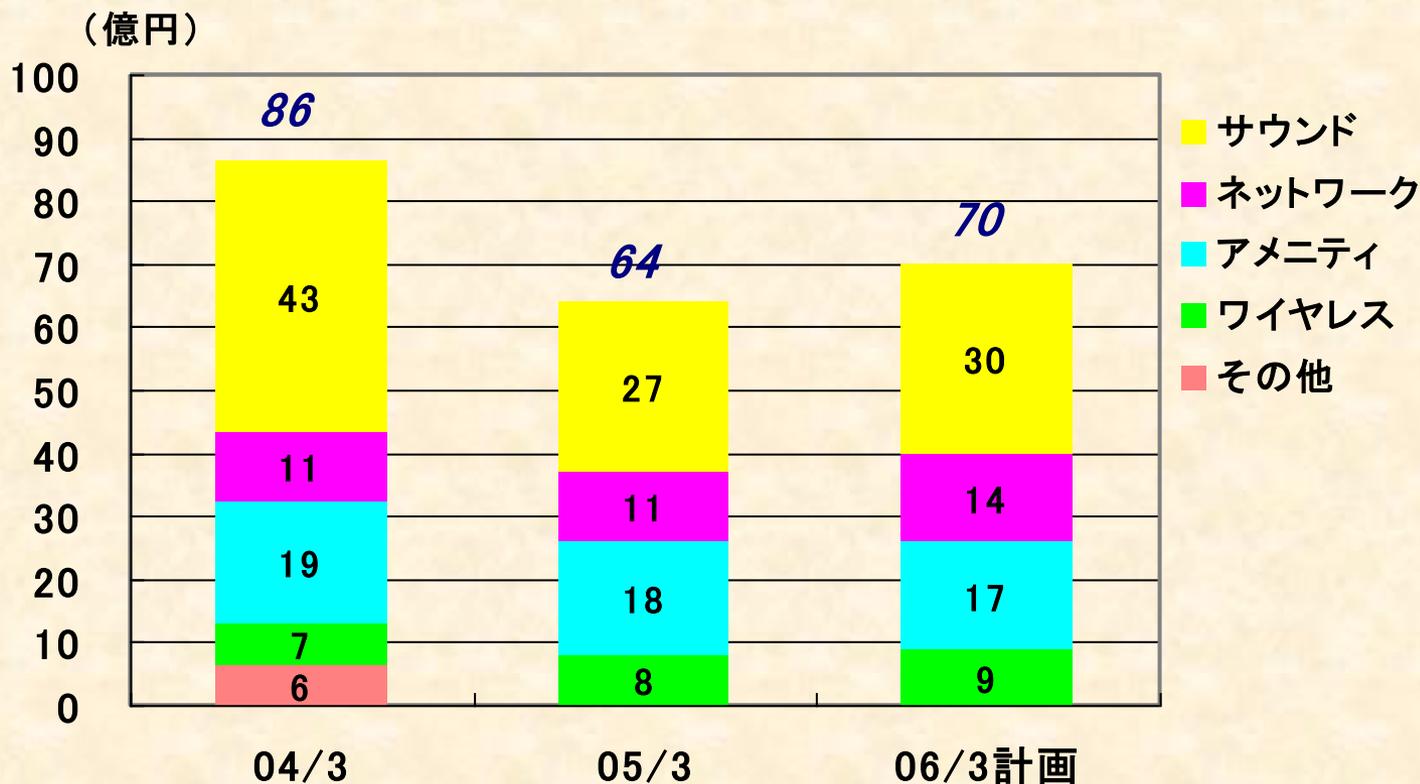
導電性接着剤  
(TCAPシリーズ)

# 事業戦略(5)



## 情報機器事業 - 経営マネジメント戦略 -

- 事業構造改革による収益の改善と事業基盤の見直し
- 次世代監視システムの導入によるネットワークインフラ事業の拡販とネットワーク関連製品(無線LAN、VoIP)の拡販による事業基盤構築



# 事業戦略(6)



## 情報機器事業 - 事業構造戦略 -

- 今後加速する地方局デジタル化の囲い込み
- キー局更新需要へ向けた  
大型ミキシング・コンソールの開発推進



- ワイヤレス技術の応用製品開発の推進とグローバル拡販体制の確立



携帯電話抑止装置  
「TEL-PAUSE」シリーズ

劇場、ホール、駅、病院などへ提案拡販中  
又、アジアを中心にグローバル拡販も展開中

タムラが持つ、ワイヤレス技術、材料技術を  
駆使し、アンテナの小型化など他社にない  
製品を提案中

USB対応  
RFIDモジュール





*Ambitious*

*Tamura's Only One*

**TAMURA**

The End